黒松内 高校卒業（18歳）までの医療費無料化へ

「明るい会」との懇談で町長が表明

黒松内町役場での懇談会

1月12日、黒松内診療所・社員支部・友の会・勤医労支部なども参加する「明るい黒松内町をつくる会」と、町長との懇談会が行われ11人（診療所関係9人）が参加しました。

事前に農業問題から医療・福祉まで22項目の要望書を提出してあり、要望に基づいて意見交換が行われ、いくつかの前進回答がありました。

町長の回答で示された、医療関係での主な内容

●町の子ども医療費無料化を4月から高校卒業（18歳）まで行う（現在は中学卒業まで）

●町単独の老人医療（67から69歳）は継続する

●子宮頸がん、小児肺炎球菌、ヒブワクチンの無料化（4月から）

●国保税の引き上げはしない

保険証があっても手遅れ死

国保など死亡事例調査から～治療費払えないため受診せず3か月で死亡

61歳の男性、妻と2人暮らし。3年前までは建設業の仕事をしており、その当時は健診も受けていました。少ない年金を担保にして借金をする生活でした。まじめで人に迷惑をかけたくないと、借金生活でも国保の保険料を払い1年間の正規保険証を持っていました。病院へ行くのは窓口負担が払えないからと、がまんしていたそうです。

両下肢に浮腫が出るようになり昨年6月に西区病院を受診して、すぐに中央病院へ紹介されました。すでに肝細胞がんの末期で、治療できる状態ではありませんでした。中病受診時は5千円程度の手持ち金しかなく、年金担保のため生活保護申請はきびしい条件でしたが、生活が崩壊状態のため保護申請を行い7月から認められました。6月分は無料低額診療制度を利用しました。

結局、男性は初診から3か月余りで障害のある妻を残し亡くなりました。

1/25憲法宣伝・署名 本部

1/25の平和人権行動デーで、本部共闘委員会は地下鉄菊水駅の店舗前で署名と宣伝を行いました。各セクションから9人が参加し、寒い中でしたがハンドマイクで訴えながら、通行人に憲法ティッシュを配り、署名をお願いしました。短時間の行動で、安心の医療をつくる署名･21筆、憲法署名･2筆が寄せられました。

浦河 新高齢者医療の学習会

2/3、浦河診療所で「新高齢者医療制度と国保の都道府県化」の学習会を開き、職員や地域の方々9人が参加しました。

参加者からは「高齢者にどのように知らせていくかが課題」等の声が出されました。

共同デスク

No.５２７ 2011年 2月 4日

北海道勤医協本部組織広報部
TEL813-5510 fax821-3701